

季節の風景 2月

下萌え

一面の枯野に仄かに緑の色が混じる季節となりました。

春の訪れとともに冬枯れした草の下から新芽が芽生えて、緑が顔をのぞかせているのです。名前さえ知らない道端の雑草の芽でも、その初々しい緑には目を惹かれます。「草萌え」「草萌ゆる」とも言います。まだまだ外気は冷たくても、草はいち早く春の気配を感じ取って、萌え出ます。寒さに身も心もかじかんでいた人間も、立春が過ぎる頃から、なんとなく背筋が伸びるような気分になってきます。そういう春の感じを象徴的に表わすのが「下萌え」という季語です。

また、お茶会などに出される和菓子にも、「下萌え」という名前の和菓子があります。和菓子は季節に合わせるか少し先取りして作られるものも多く、五感で四季を感じることが出来ます。お店によってさまざまですが、雪の下や地面から出てくる様子が美味しうに表現されていて感激します。

そして、下萌えの緑は、春の訪れと新しい希望の訪れを感じさせてくれるのです。



海洋堂ホビー館 de ひなまつり

フィギュアひな壇の展示や限定体験教室など。

■日時 / 2月1日(土)～3月6日(金)

午前10時～午後5時

■場所 / 海洋堂ホビー館四万十

〔お問い合わせ先〕

海洋堂ホビー館四万十 ☎29-3355

四万十街道ひなまつり

期間中、各地でさまざまな催し物が行われます。

■日時 / 2月8日(土)～4月12日(日)

■場所 / 四万十川流域各地域

愛媛県松野町、鬼北町

〔お問い合わせ先〕 四万十町観光協会 ☎29-6004

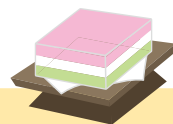
半平ひなまつり

文化的景観と雛めぐりを楽しんでください。

■日時 / 2月8日(土)～3月8日(日)

午前9時～午後5時

■場所 / 古民家カフェ半平



〔お問い合わせ先〕

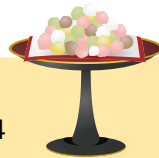
古民家カフェ半平 ☎050-8807-5075

甘味寺

四万十町のあまーいイベント。

■日時 / 3月1日(日) 午前10時～午後3時

■場所 / 岩本寺



〔お問い合わせ先〕

四万十町観光協会 ☎29-6004

大正浪漫ひなまつり

ひな人形800体の展示とステージイベント、ワークショップなど楽しい催しものがあります。

■日時 / 3月21日(土) 午前10時～午後3時

■場所 / コンベンションホールきらら大正

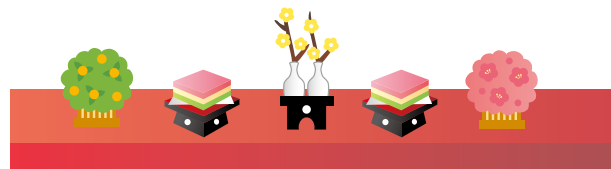
〔お問い合わせ先〕

四万十町商工会大正支所 ☎27-0238

志和エリア ひなまつりイベント

いろいろな場所で展示しています。

■日時 / 3月22日(日)～4月5日(日)



第4回 志和せマーケットと ハンドメイド教室

志和のひなまつりイベントに合わせた体験教室。志和物産品販売。

■日時 / 4月5日(日) 午前10時～午後3時

■場所 / 志和コミュニティセンター

〔お問い合わせ先〕 喫茶なごみ ☎24-1070

ひな祭りバイキング

ひな祭りに合わせ中津川の婦人部が料理を提供。

■日時 / 4月5日(日) 午前11時～午後2時

■場所 / 大正中津川集落活動センターこだま

〔お問い合わせ先〕

こだま事務局(西本) ☎090-9700-7856

遊具を寄贈していただきました

興津保育所の子どもたちのために、と興津浦分にお住いの石井保廣様より、大型ハウス遊具を寄贈していただきました。デイサービスさくら貝に週2回通所されている石井様ですが、元気に遊ぶ子どもたちの姿を見て、「何かこの子たちにしてあげたい。」と思うようになったそうです。元々、子どもが好きで昔は浦分の子どもたちがよく自宅に遊びに来ていたそうですが、「今は子どもがおらんってしょうたね。」とおっしゃっていました。

昨年12月16日、年長児3人が代表して、保護者会からの感謝状と花を贈りました。『人生最良の日や!』と子どもたちが遊具で元気に遊ぶ姿に目を細めて優しいお顔で眺められていました。石井様、本当にありがとうございました。



▲きれいに並べられた切り出した田中さんのホダ木

十和地域の地域振興をミッションとする地域おこし協力隊員として、2018年5月に着任した田中さんは、福岡県福津市のご出身で、前職は自動車の塗装業。地元の高校を卒業して、自動車整備の専門学校へ進みました。そして日産自動車に就職。日産自動車では整備の仕事はもとより、フロントサービスとして接客の仕事をすることもあったそうです。整備・販売といった自動車に関連することに従事しているうちは良かったのですが、長らく不況の影響もあって、会社から、自動車とは何の関係もない

物品のセールスを命じられるようになってきたのです。「これは違う…」田中さんは板金部門への配属を希望しましたが受け入れられずやむなく退職し、自動車の板金専門の会社へ転職。「自動車整備に関わることは全てやってみよう」という思いのあった田中さんは、板金の会社で10年勤めた後、今度は自動車塗装の会社へ転職しました。田中さんが自動車整備への道を歩むきっかけとなったのは、お父さんから与えられたバイクの解体。解体と組み立てに挑戦したものの「結局バラして終わる(笑)」という結果がとても悔しかったそうです。さらに、車の免許を取得して、お父さんの車を運転した時のこと、バックして誤って後部バンパーを派手に凹ませてしまい「これは猛烈に叱られる!」と焦った田中さんは、元どおりするべく必死に叩いて修復を試みている最中にお父

さんが帰宅。万事休す!ところがお父さんは叱ることなく「お前、何しよんか?」と大笑いしたのだそうです。「これといつてのめりこむものがなかった息子が、何かに夢中になっていることが嬉しかったんだと思います」「エンジンからボディまで「自動車整備においてはオールラウンドプレイヤーになった田中さんですが、人間として生きていく根源的な思いも持ち続けていました。それは食べ物。人間、車はなくても生きていけますけど、食べ物がないと生きていけませんしね。いずれは食べ物も作って生きていきたいと思っています」と語る田中さん。そして、縁あって四万十町の地域おこし協力隊となりました。現在、椎茸の栽培に取り組みながら、さまざまな現実の厳しさに直面しつつ、農業での自立の可能性を探っているそうです。

今月の
食べもんがないと生きていけませんけど、
車はなくても生きていけますけど、
食べもんがないと生きていけません。



たなか こうじ
田中 浩二さん
(広瀬)